

### 3

## 豊富な指導データの蓄積があります。

開塾以来20数年、約1000人の指導データが蓄積されています。

指導データは授業報告書（日報）という形で蓄積され指導上、様々に利用されます。

授業報告書（日報）についてご説明します。

以下①～③の生徒に関する基本情報とこれらに基づいて作成された学習計画・授業方針が予め印刷されています。

担当者はこれに従い授業を進め、その日の「学習内容と理解度」、「生徒の様子」、「家庭学習の評価」「所感・アドバイス」を毎授業毎に記入していきます。この日報は定期的に家庭にお渡しし、教室でも保管します。

### 1 学校情報

定期試験日・年間行事・学校指導方針  
最近のテスト結果・現在の進度  
習熟度別クラスか  
部活活動日と時間帯や 何年何月まで続ける

### 2 志望校・ 入会目的・ ご父母の要望

「厳しくやってほしい」など

### 3 克服すべき課題

「数学の図形」 「英語長文」  
「字を丁寧に書く」・・・

### 学習計画・授業方針

使用テキスト・進めるスピード・宿題量  
学校の進度に合わせるかどうか

ある中学3年生の日報をご紹介します。

### 1 通学校情報

区立〇〇中3年 年間5回の定期試験（5・6・10・12・3月）がある。  
サッカー部（月・水・金 ～18時まで活動）8月一杯までは試合が多く勉強時間確保が厳しい  
他の区立中よりも優秀な生徒が集まっており内申の確保が難しく定期試験の問題も難しい

### 2 志望校・入会目的・ご父母要望

グループ作成問題都立高を第一志望（西・日比谷・戸山 あたり）  
父兄 「数学の成績を上げてほしい。他の教科は何とか一人で出来ている。」  
本人 「厳しい指導にもついていきます。」

### 3 生徒の課題

数学における本人課題 「中1・2年の単元で抜けている部分多い。」  
「比例・反比例 一次関数」といった関数系が弱い

### 4 学習計画・授業方針

中1・2の穴に関して宿題として毎回宿題に「復習プリント」を出し穴を埋めていく  
模試も有るので「関数系」が弱いのは放っておけない。この部分だけのプリントを作り宿題とする。  
内申確保のため学校の進路に合わせ進めるが都立トップ高志望を考慮しハイレベル問題も組み入れる。  
素内申42以上を目指し、内申4の理・社を5に上げるため土日特訓に参加していただく。

こういった基本情報は本人の志望校変更・模試成績の推移・推薦への変更などの変化に応じ常に書き換えていきます。

## 指導データの蓄積（日報）がどのように生かされていくか

生徒一人一人が抱える問題も10人10色、一人一人の個性に応じた解決策が求められます。私たちは様々な生徒と肌で接しながら何がこの生徒にとってベストなのかを考えます。過去に、同様なケースはなかったか、卒業生の日報をもう一度読み返します。そこにヒントがなければ、新たに編み出すしかありません。模索は続きます。こうして、ようやく「これだ」という処方箋が見つかり、自信を持って生徒に実行しても、空しく効果が無いということもしばしば起こります。さらにもう一度、過去の日報を読み直したり、新たな策を練り今度こそと授業に臨みます。失敗をすればするほど私たちのやる気は増していきます。これが私たちの日々です。こうした中で多くの指導ノウハウが蓄積されました。

ここで具体的な例をご紹介します。

### 国語編 物語文の読解 国語が大嫌いな、中2 H君のケース

ご父母の要望は「国語が大嫌い 全く本を読まない。文章・文字に対して抵抗感が強く、字は殴り書きしている。何とかしないと他の教科にもいずれ影響するのではないのでしょうか？文章に興味を持つようにしてほしいのですが」

このような生徒は比較的多く小・中・高の男子生徒に多く見られ、私たちにとっても既に経験済みの事例と思われました。そこで、従前通りの処方箋を実行しました。



#### 処方箋 I

まず、H君に内容に興味を持ってもらうため、作者・作品についてのおもしろいエピソードやなぜこの作品を作者が書いたのか、またその当時の社会の様子・人々の暮らし・作者が置かれた環境などを本人に話して聞かせました。約1月が経過し、こういった話に興味を示し、いろいろ感想も言ってくれるようにもなりました。これで突破口は開けたという気持ちにもなりました。しかし、宿題に音読・読解を出しても一向にやってくる気配はありません。授業中、一通りの説明後、内容について質問しても答えられず、こちらからの話が「正確な読解」につながっているとはとても言えないようでした。設問を解かせても、「当たった」、「外れた」、「引かなかった。」の感想しか持ってくれません。

「文章に興味を持たせてくれ」というご父兄の要望には未だ応えられていないようです。何か別の方法を講じない限り、責任は果たせません。



#### 処方箋 II

次はH君が文章をどう捉えているのかを確認してみようと、「一行ずつ」、場合によっては「一文節毎」にテキストを閉じ内容を答えてもらいました。もちろん本人の知らない語句は全てノート（当会では語句ノートと呼びます。）に書き出させ、使い方のわからない語句は、これを使って短文を作るという作業も全て終了し聞いてみたのです。H君は文章中の言葉を使ってそれなりに説明はしてくれるのですが、いつもその説明はほとんど同じで、自分の言葉がほとんどありません。答えられなくなると閉じたテキストを開け本文をそのまま言うという始末でした。もしかするとH君は本文を頭に入れるのに内容をイメージ化（映像化）するのではなく、文字ごと記憶しようとしているのではないかと疑問が湧いてきました。そこで、H君が内容が分かったと答えた文章について「この場面を絵にしてみましょう。」とお願いすると。ほとんど描けません。絵が下手ということではなく場面が全く映像化されてないのです。ようやく、**病巣の確信**に到達したようです。早速こちらで絵を描いてあげると、H君は「こういうことか」と納得。「これが読んで理解したということだよ」と話し、当面、「文章を読んで絵を描く」作戦で授業を進めていきました。

経過＞ 物語文に関し、興味を示し、場面も映像化され、設問の正答率も上がってきました。たまには「この続きを読みたい。」と私たちを喜ばせてくれました。次の課題 「殴り書き」→「丁寧な字」に本腰を入れられそうです。「日本語の漢字・ひらがな」は美しいということから始めます。読解についてもまだ、「説明的文章の読解」が課題として残っています。